



代表 はまうら佳子
〒582-0026
柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502
FAX 072-977-8782

The Kashiwara Miharibān かしわら見張り番

原市民病院関係者A 氏が捜査機関から事情聴取を受けた。これに対し岡本市長は「容疑はわからないし、私は何も知らない」と説明したが、病院に対して、なんらかの疑惑があつたことは明らかである。

この一連の騒動に關して、以前から、かしわら見張り番に投書が寄せられていた。以下、その内容である。

「柏原市民病院では毎月不透明な能力

医療ができる!?

毎年5億円という赤字が続く柏原市民病院。以前から、意味のわからない能力給、市長によるあやしい医療ミスの補償など、数々の問題を抱えている。そしてこの11月、病院関係者に事情聴取があったようだ。

柏原市民病院の中でいつたい何が起つているのだろうか。

**病院関係者に事情聴取が!?
毎年累積赤字で存続の危機！**

柏原市民病院に不穏な動き!?



柏原市民病院

業務に対し、柏原市民病院では特別とみなして、昔から勤務している一部のスタッフだけにこのような不透明なお金が支払われ続けています。院長・副院长は「新しく改革す

いくお金の使われ方ではありますん。

また、そのほかにも『一般能力給』『資格能力給』『委員会能力給』とありますが、毎回支給されているひとはほぼ同じメンバーであります。尚且つ特別な資格を持つていたりもしていません。他の病院ではやつて当たり前の

柏原市民病院はいろいろな面で第三者からの監査が入らないとよくなつていかない病院だと思います。不透明で納得のいかないお金の支給をやめるように、「かしわら見張り番」の皆さんで、声を大にして言つてくれさい」。

柏原市はただでさえ財政難です。不透明なお金を毎月支給するのではなく、病院の壊れた医療機器の修理代に使う、新しい医療機器を購入するなど柏原市民が安心して病院の環境をつくっていくことのほうが先決です。

岡本市長は、3年前に柏原市本会議で「3年以内に病院を黒字にする、出来なければ辞める」と豪語していた。しかし、22年度の柏原市民病院の医業収支は、約5億円の赤字である。さらに病院が負担する返済金（特別債3億2000万円など）もあり、毎年、10億円近くが市民病院の補てんに使われる。このままいけば5年で約50億円、柏原市財政を圧迫するとい

採算がとれない市立病院に対し、毎年10億円が市から病院へ

一方、柏原市の税率は低下の一歩をたどつてゐる。柏原の市税が増加して、里字になつていくのであればいいが、120億円ほどあつた市税が現在90億円といわれている。市の人口も7万3000人まで減少、今後、交付金並びに補助金等も減額されていくだろう。

何が起こっているのだろうか？疑いたくなる情報が錯そうしている。市民の貴重な税金がつぎ込まれているのに、「病院は管理者に任せていらるから知らん」という岡本市長。天下りと言われる管理者を選んだのは、岡本市長本人である。平成20年の談合事件に続いて捜査が入るようになることになり、一度ならず、二度も不祥事がでれば、最高管理者である岡本市長ならばに管理者の責任問題は必至である。何も起こらないこと願つてゐる。

「火のないところに煙は立たぬ！」

うねきが立つのはなんらかの根拠があるということ



3年で病院を建て直す、それどころか事情聴取って、どういうこと？赤字も全然解消されていないのに、のんびりしている場合じゃないでしょ。病院関係者となんか密談でもあるの？